

民主島根

2022年
5.22
第1405号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

江津 参院比例5議席絶対確保へ 反戦平和貫く共産党の躍進を

笠井 衆議員、福住 参院島取・島根選挙区予定候補、森川・多田市議訴え



声援に応える(左から)森川、笠井、福住、多田の各氏(江津市)



食料品製造業者から要望を聞く尾村県議、舟木、橋市議(松江市)

日本共産党西部地区委員会では8日、笠井亮衆院議員を迎え、にひそうへい前参院議員の比例議席を奪還し、比例5議席確保と島取・島根選挙区での勝利、江津市議選(22日告示・29日投票)の現有2議席確保に向け、江津市で演説会を開きました。

笠井氏は、ロシアのウクライナ侵略に対し、国際世論による包囲の重要性を強調するとともに、危機に乗じた改憲と「核共有」議論の危険性を告発。核兵器禁止条約を採択した国連会議(2017年)に党代表団として参加した経緯を紹介し、「被爆2世として核兵器の使用など許せない。核抑止力論を打ち破り、唯一の戦争被爆国の日本こそ条約に参加して世界を

リードすべきだ」と強調しました。

共産党への疑問に答える「はてな」リーフを紹介しながら、憲法9条を生かした東アジア規模の友好条約をめざす重要性などを説明し、弱肉強食の新自由主義を転換し「やさしく強い経済」をつくる党の政策を訴え。市議選、参院選で反戦平和を貫く日本共産党への

支援を呼びかけ、「政治を変え希望を江津市から発信しよう」と力を込めました。

福住ひでゆき参院選挙区候補は「憲法9条と平和を守るために日本共産党を躍進させてほしい」と訴え。にひ前参院議員のメッセージが紹介されました。森川よしひで、多田伸治の両市議も決意表明しました。

物価値上げ分 価格転嫁できない

松江 尾村県議らが業者訪問

コロナ危機に加え、石油価格や食料品など物価高騰が暮らしと中小業者の営業に深刻な打撃を与えている問題で、日本共産党の尾村利成県議と舟木健治、橋ふみ両松江市議、岩田剛東部地区委員長は9日、松江民主商工

会(松江市)の事務局長とともに市内業者を訪問。食料品製造、金属加工、塗装、建具、金属製品製造などの業者から実態を聴取しました。

業務用冷蔵庫の部品などを加工しているステンレス業者は、昨年末から原材料が4回も値上げされ、

さらに来月からも値上げとなり、単価が1.5倍(1㎡当たり700円↓1000円)になったと述べ、「受注契約で冷蔵庫の本体価格が決められており、値上げ分は価格転嫁できない」と苦しい胸の内を語りました。

塗装業者からは「メーカーから塗料、シンナーが寄せられました。製品を15%〜40%値上げする文書が届いた。来月からコロナ融資の借入れ返済も始まり、不安でいっぱい」との声が出され、食料品製造業者からは「せめて食料品は非課税にしてほしい。地元でお金が回るよう域内経済循環が必要」との声が寄せられました。

寺戸氏 激戦制す

津和野議選

4月19日告示・24日投票された津和野議選で、日本共産党の寺戸昌子氏は定数12名に対し、13名が立候補する少数激戦を制し、3期目の当選を勝ち取りました。

寺戸氏は選挙中、▽生活交通の確保、乗合タクシーの充実▽国保税、介護保険料の負担軽減▽学校給食費、保育料の無料化▽鳥獣被害対策など農林漁業支援▽国の病院再編・病床削減ノードの政策を訴えました。(写真)



寺戸 昌子(現) 245票・11位 (投票率78.94%)

得票率は5.18%でした。開票結果は次の通りです。

日本共産党の躍進で憲法を守り生かす政治を

日本共産党演説会

6月4日(土) 13:00~松江・イオン前
15:00~出雲・朱鷺会館

弁士

参院議員

さとし

井上 哲士



- にひそうへい(前参院議員・参院比例)
 - 福住ひでゆき(参院島取・島根)もお話します。
- YouTubeでオンライン・ライブ配信します。自宅のパソコンやスマホを使って YouTube「jcpshimane」チャンネルで視聴できます。ヤフーやグーグルなどで「jcpshimane」と入力し検索して下さい。

鼓動

今日ほど想像力が問われている時はない。遠くウクライナで起きている非道を自分のこととして想像する力である。児童文学作家の山本悦子さんは「子どものうちに想像力を身に付けてほしい。つねづね世の中でおこるほんとの争いは、想像力を身に付けることで避けられる」と、ある新聞に寄稿していた▼山本さんは「想像力は大人になって急に身に付けようとしてもなかなかうまくいきません。残念なこと

に想像力を身に付けないまま大人になってしまった人もいます」と、侵略戦争を起したプーチン大統領を痛烈に批判。そして「想像力はあなたを救う。世界を救う」と訴え、子どもたちに普段から本を読むことを勧める▼同じことを建築家の安藤忠雄さんも「こども本の森」を紹介する絵本のとがきに書いています。個性的な建築デザインの世界をめぐると「旅はなかなかに行けません。心の旅はいつでも出発できる。本を読み進めるうちにそれまで知らなかった世界が広がっていく」と指摘する▼「こども本の森」は大阪・中ノ島にある。安藤さんが自ら設計し寄贈した児童図書館で世界の絵本がわんさと並んでいるという。一度訪れたい。子どもの頃、絵本、図鑑が大好きで学校の図書室で読みあさった。夢がいったいどの想像の世界にとりこまれた▼その時に培った想像力が、古希にして始めたライフワークに役立っているように思う。「心の旅」で、つぎつぎとわき出るストーリーの展開を楽しみながら作品を仕上げていく満足感は何ともいえない。(吉)